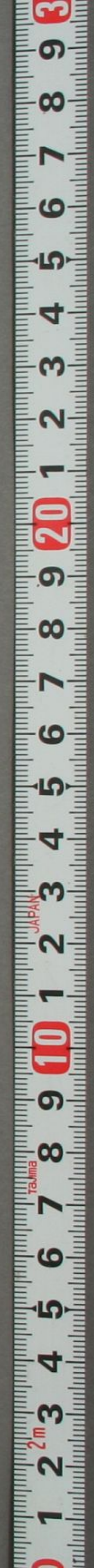




中村俊定文庫
文庫 18
92



卷之二



俳諧向之因

秋部

初秋

屋根の重し蟬に泣く月くみか秋の秋
 土蔵をりしとんぼに初る秋の秋
 夕洲の風流にやう秋の秋
 泊り客旅宿の山々秋の秋
 夕秋の秋

一葉
 露沾
 幽山
 云尖
 寢覚



染り何なりとわらわくは物秋 棄舟
青扇も氣紙休めたりと物秋 道折
秋本ぬきと物とわらわくは肉 一鉄
秋きぬとたのしみの年や春を序 尖風
立にきり毛乃ては年秋は声 不門

は橋能舟像をくぞく
そくくはは自筆はを
あされー追悼し

繪安や汎常共と流く一と秋 函山

糸巻る今朝とのまゝ秋の風 直良
橋流や舟乃紙と物乃秋 則定
いゝ今朝は病て物乃秋 不卜

一葉

一葉乃舟は雲や花はくり 調味
水汲れ尻休めく一葉の桐 調南子
徹書記のつゝと花梢の森 松風

残暑

是見て手首にあはる是を片 不末

扇置

夕書やさなる是下一垂る 二葉子

秋蟬

秋や名少帳の羽衣狂惟子 不門

指婁

指婁やさきの景打光りたり 一藁

指婁やうろ指山見むら紅粉紙坊 青鳳學

指婁やあひ編る三田此か 二葉子

七夕

あや事と栞本此栞よる天候 不門

他川此羽衣かさん雨のり 曲言

栞屏凡みのくくさん西此景 露言

くく宵西景のくく浅生合而 一藁

若く急僧正此牛さくあつ天の河 松風

よくあふ雨のむくくくも天の河 可躍

馬鶴乃栞渡清く早くや昔を坊 露章

間次平 水莖くくくせ早の牛 言水

天乃河早此くく神や依渡小判 泰清

子向きり現や乃河内との河
 言求
 養父入やとらにあゝは出人
 正英
 との河やと痛れぬ神玉付
 不求
 出食り一磨里うさん玉の河
 忠和
 ぬ、早れおひれ割や堪詰
 言泉
 精有たりおれおと男七夕
 不嵐
 さい五丸早や牛引る橋川
 調幸子
 七夕たろ川言る買れ袖とや
 如鐵
 鶴乃毛衣蒲團寝る夕之
 一法

む川とやる鬼う承れ早の牛
 立些
 流るあやや背まき、流りて是梓
 一固
 雨は早や屋をぬ馬れとて拒
 不門
 早の別事系りり五筋三橋素麴
 不卜
 近身早やぬふ乃入道と
 同

視洗

夕方の視洗ひてとれと景公
 未琢
 思ふまやとふ名を流を視洗ひ
 標子
 視洗ひてとて七磨切葉と
 貴重

活度乃早懐硯あゝいさり 調味

社煤拂

社乃煤あゝこ拂ちん紙川 女丸

社乃煤澤上二再屏くく 煤子

社乃煤扱女神とく紙幣 不卜

嶺入

屋入やいそほとぬき 不門

玉奈

位輝急行 神の水田や玉奈 調川子

夕形をよみしとく 不門

又右馬つやいほりて 一杓

あ乃世う柳拾りて 疎元

屋を夫や娘う 巳水

市古悪く 笑花

盆極や 笑儒

盆極や 調味

盆張系れ 炎水

枝さく 露宿

不^レ言^レ也^レ冥途乃^レ候^レ卒^レ於^レ婆^レ壇
 不^レ端
 山夕
 松陰
 元政
 味遊
 忘水
 黃吻
 失理

味

母乃^レ作^レ以^レ之^レひ^レや^レて

日^レ上^レ都^レ日^レ々^レや^レ引^レ々^レん^レ在^レ冥^レ棚
 山^レ人^レ
 弘^レ誓^レ此^レ身^レ玉^レ奈^レ々^レ々^レり^レ冥^レ居^レ佛
 則^レ房^レ
 水^レ施^レ儀^レ鬼^レ漢^レ乃^レ々^レ世^レや^レ秋^レ川
 不^レ門^レ
 々^レ々^レ分^レ四^レや^レ美^レ持^レ下^レ々^レ々^レ廿^レ三^レ日
 同

蓮^レ板

米^レ乃^レ菩^レ薩^レ蓮^レ舟^レ々^レ々^レ也^レ強^レ公^レり
 立^レ此^レ
 出^レ々^レ々^レ一^レ辰^レ叔^レ々^レ々^レ々^レ蓮^レ板
 ノ^レ身

躍

大躍あゝの畧やなゝあどの
下甲役若之係代越てやに戸躍
題目躍交りひひのれを
くといきりて今万葉伴勢躍
露章
立端子
不門
同

相撲

蹟も勝やをく人をぬかぬ授
笑水

露

維舟追悼

貞室くさるもいふに維舟露
露沾

揚りもたりのあまやあれ玉
露とあゝ海士れくものそ者
松意

維舟追悼

死出の山に三連の水邊に我子露
不卜

露

洞山乃船寺のりやさゝる流凡
調南子

西風

あれ西風新九郎流の越あたり
調和

時のかも水鷗身くく舟あ
ノ身

中
 七
 兼豊
 露鶴
 槃春
 女丸
 申笑
 立些
 露鶴
 曉雲
 一法
 押し折れ今目前乃西爪もろ
 あ水味成、まき由に之指山西爪
 ばま味や狸を腹成山西爪
 控揚枝胆乃之木や山西爪
 加ことやほ、江戸別ぬ金さうん
 欲く加こと天秤ねりる西爪其貫
 実や西爪成る落くあり山西爪
 はぢりりり仙金人る山西爪
 四く緑西成り山西爪

切口や^青衣乃西葉山西爪
 心糸やあ凡れ切素く成りる
 ノ身
 願心

鬼灯

鬼灯のまゝ乃中凡れり水有
 鬼灯やうけ唐法教まて
 竹串の園にせ毛り鬼灯足毛
 鬼灯や虫れ拖灯、尾志う人
 鬼灯や油り、蜜成色に新し
 女あやうもりし世もく鬼をうり
 調抱子
 尖儒
 女丸
 ノ身
 氏雄
 正英

夕彦くや茄子鬼灯、お家の眼ノ身
鬼灯や籠り、燐け入日乳 不卜

若相草

甲斐くぬや、花も白きあたまこ
位濃ぢく、浅るや云国若たて 不門

唐辛子

遍照や、泪枝折、夜く
突夢

朝顔

朝馬や、夏母を、見彦く、何り春
云尖

朝顔く、乃不り、く、小竹の垣
方丸
菖蒲、朝只制、乃命、論、く、り
松水

萩

藤下、く、萩、く、も、く、雨、と、も、云
松風
伊勢、く、元、と、く、萩、く、く、萩、く、く、
道折
萩、く、く、目、み、く、く、や、く、く、く、
調味

三傳

縫、く、く、玉、持、く、く、ぬ、く、糸、
立竿

女郎花

子付の鯉遍船旅人女郎花 文獻

出

志ハ虫も採りもや 長者教 蝶子
腹乃虫も一度も腹を這はらばり 松風
物何と考はたしや 時秋の丸 桃青

蛇穴入

首より下穴に入らり 蛇責 不計
穴へ金入り 新田の女郎蛇の尾 女丸

咽やきこえし入らり 白蛇教 卜仙
海むし指穴より金入り 本舞き 黄吻

考人追悼

穴へ金入り 蛇チイ祖チイとらひ 蔵チイも 不卜

浪帖

さしあゆやとさし 此腹の小石川 笑夢

ハセ釣

さしせ物や笑れ小笠り 井の梅 遠漬
匠チイとらりや隙あきさし 吟吟チイ 笑工

中
上徳や手存乃濱此之也為每 黃吻

題約

維舟進悔

松浦乃木莫泊此處に可也

青月

新蕎麥

新蕎麥や衣に敷あゝぬ葉大根

梅女子

新持とん王伯儀の言有之

黃鳥

此神をいふこと

とりの事あはれその新持を

不問

鳩吹

焼鳥やその鳩少くわく炭

調味

鶉

後本より朝きとせき鶉籠

似春

木枕所引居あり鶉籠

不外

年寄も法蓮とて鶉籠可

立独

明屋敷鶉啼く浅茅原

露草

朝度坊鶉くく人草枕

笑長

略

中

松子松うー鴨之澤の杖くまり
古き店鴨之澤や杖乃色
不ト

雁

本松や幸しも旅宿の杖より
質物しと文や杖乃色
難言

或時の方杖のうー

此名松や居る人あまの杖
文字は居まはくのを杖乃色
不見

月

約とめく神や何く佐也月	狐や鼻を杖乃色	月し松を入ぬる杖乃色	江戸は月屋杖乃色	今この月吹く杖乃色	汲る志る杖乃色	水の月や杖乃色	新そつと杖乃色	續松や杖乃色
笑平	山夕	一陽子	在甚	不門	露宿	調味	黄吻	葉舟

出たりの各別くしきりに三骨 立些
雲と月林と云ん事出く雲割く 弘種
孤浦や月重山し隣連て處を揚 松甫

此集後扱

月白みむらひ此名や鏡立 一法
時代や刺刀試凡月の言 笑予
大小乃爺口小言と云はれ月 不門
狭袴や衣箱貯る月や腹貯る /身
寂少改社りし言や早月布 卜丸

壁并服戸尻もくさし寝る月 露宿
鞠箱や月張入きん後戸社言 調幸子
解併や社りし言と云はれ月 齒
衣箱貯るや着板も月おん世はる士 素禎
三ヶ月や雲の厚し 鍾 不計
丸形竹影や月沈陸天井 調南子
朽穿川月と花れ車引 松喃
去目程憶乃母ひや月と雲 不門

東山あそび

柔尾花々月加らりて東山 不嵐

有香尾何くし鳥無り

武苑野ちりき白珠と

りて白珠とせて

武苑野月白銀の月輪花こたり 不卜

名月

風く柔介有月之れ直者之 露沾

半成者法入る月之れ月と之 兼豊

秋そ月之れ年之れ白也十日予 出山

趣向なる筆とを金ぬくは月 二葉子

片の一字春春のうらを有 調味

化すたやふは秋おゆるは有の月 勝信

油賣のあまきれ果をりは有 梅仙

と有は月貫くは鳥林と有り 立標

月の半しよるは秋あき名立は有 調歌子

猿也

今有るはれ也りか金脚也 一鉄

底元は群の者も也ははは有 泰徳

古芋や土籠とくも乃月 不明
 大師法とくぬの月に不學 才丸
 世玉川とく誦語とく曇る月 不來
 坊一川芋我れ月此を心とく 宜亭
 至月の影在や引らん大法 春清
 酒全とく依傍乃とく勢き我月 調柳子
 曰言遠子灯大此消際とく此月 調南子
 月見とくとくもとくけ満れ手此云 式生
 とく青れ月浪もあくとくや朱盞 正英

鱗屋探はくも月とく青れ月 一法
 石根とくとくまんとくとく小を月 尖予
 とく我下とく沙粒れ眼とく海月 一藁
 今宵月宰子わらん屋枕 調花子

や六むとく

すとく月とく物乃泳や吻徳利 調味
 芋福師とく著異日得ん口方月 不卜

放生會

されとく日教生との慈恵放生會 松風

中
駒形町 鯉乃 龍乃 蛟生云 之筆子
泉水や川 奈流乃 教生云 調書子

駒形

百吟

海色相 相乃 力華 紀子

花火

浪我 吾之 龍女 手乃 玉中 母 紀政
嵐火や 追 凡き 川 穴 一 固
月よ 舟 花 半 乃 形 乃 四 松 風

波 乃 ち 鳴 門 乃 入 日 花 火 山 夕
嵐 火 や 兼 好 乃 一 一 羨 費 笑 水
浪 早 乃 一 一 此 心 乃 一 一 天 乃 道 折
才 此 乃 行 乃 養 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 不 門
女 中 舟 姐 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 言 水
加 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 江 雲
柏 子 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 調 柳 子
狼 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 卜 尺

碓

裡度入るんおく小袖衣 不双
 赤杵の標木板や遠くも 黄吻
 居眠やさい杵あはほく川衣 不門
 小袖更そくく川衣を赤杵 松風
 子衣おやよはほきお廣小袖衣 ノ身
 待青やあ氣殺く川小袖衣 云矣
 碓のよりし悉別此声を古^着買 不門
 不卜^年んん
 自今以後は相廻るん衣 江雲

太道加り

二巻や赤く衣く 不卜

麻

麻は毒や又よ付を急感く 不門
 赤袴登や麻か鹿やらあ 一鉄
 袷形や男麻此角乃皮^中 卜丸
 口角や麻の考ねろは^中 道折
 赤袴一男麻の野色や尾花^中 調柳子

紅葉

龍田川や排傍しあつた唐じし 不卜
 唐じし水ぬ衣を糸散りり火打石 不及
 牙詰り師古脚の糸糸結ゆり 矢詠
 丸点や懐紙乃後めし糸糸 立允
 糸糸唐や下戸は糸糸を糸糸 立独
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 青鳳
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 石門
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 調味
 時糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 身

裏付笠 黒髪山や下糸糸 和直
 履乃糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 不氷
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 一鉄

葛

朝戸出や針糸糸糸糸糸糸糸 調管子
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 調南子

九月九日

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 一葉
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸 曲言

香檳りー本札や懐るる鶴枝菊 調幸子
金程や咽々唱いそる此水 二葉子

教書中子菊枝

菊乃酒やあ創りて此舟に 黄鳥
波や奇冷も井水菊枝酒 調味
爰身して二枚菊枝もや菊枝 寢覚
菊乃一玉片に基石白ひより 不卜

後名月

味僧大草もわー 世々人雨骨 似春

焼栗や雨霧りーく月此を 不門
十三既月や桂乃三人夜 松風
登りや子も心たましく十三夜 一樂
衣もすおの夜此月や不程講 調幸子
半枝豆秋を箱し満之月此を 一ノ身
大豆蟹くまに目も付今宵此月 立些
芋虫うーみや跡る々此月 梅仙

位名市

位名市 樂天喧嘩買うるり 才丸

下戸ぬり賣乃市と云々

蝶子

松茸

火所醬汁あり松茸漬はる位は
洗淨塩や酢の滴り大松茸
松茸汁始身は枚子に籠り

松陰
不計
不門

木實

長崎村へ ころん唐古松樹
令能や 必要なく汝を鬼胡桃
箆のつり 糸糸流すや 蜜柑子

丸丸
之些
云尖

令柑や 女市 けさきいもの様

露沾

雑秋

亦中と好乃秋 水産川

信章

維舟遊傳

愁少届 杜依在 廿八
故園今 ありとあり 秋の凡
杜乃智や 仙境へ 入付壺
黄と赤に 終了を ぬれぬ秋
万本や ちねき 時雨の秋

兼豊
似春
不門
道折
笑儒

こゝ乃山時雨や花をむらさ米を籠 一亭
庭根草やよといふ夕えんは秋風 加求
蓮乃言をこゆ経て古きと飛ぶなり 信章

秋暮

思案するに真途もくくや秋言 桃青
之夕母利とやうもて秋乃言 可躍
そくくははまは呼幸秋の言 山夕
都を信やいほまの秋は秋の言 文獻
るきより益と念の懐く秋の言 素履

ままの思案くくも色りや秋の言 露深
出乃花あくら水はまのり秋の言 函水
念空や花きくめく秋の言 不問
世乃秋をこの各秋を秋の言 調賦子
秋を思く涙捨てくも下戸は里 露言

冬部

初冬

旅宿末左穀能多や	神あそひ	調管子											
尻満より	吉徳神	や旅乃穴	疎允										
相宿や	伊勢	五右衛門	旅乃道	口慰									
祿宜山	伏太	あひ	念り	神每月	立齋子								
柳杉	満	い	と	余	や	神の	旅	不門					
この	旅	や	ぬ	き	と	や	い	河	(と	あり	旅	不見
能	り	や	席	留	と	辰	敷	乃	神	所	口	慰	

堀青身戸ぬるむし小春志ききり 露章
村鳩乃膝や淋しき神のるり 調南子
朝戸出や神田の所神臨所 不卜

夜

夜く四川の時りし玉アそと 立此
かい後れ菊や又又此取乃疑 大坊
下戸れま中上戸は腰や取荒 黄吻
取くまのやれ向乃三事しハ 吟翁

昭君の神乃時雨や 後冬山 不外
赤釘や口まやこり時雨の音 笑吊
時雨たり衣は森洗濯屋 調泉子

徳倉の母く

好まや後まき時雨松く是 正英
川庵や岩間改めく一時雨 棄舟
川寺此時雨やめら依 鍾櫓 黄吻
茶くくくし筋まぬ枕小敷時雨 不玉
海浜中や後これ細にれ村時雨 露章

松乃木枕時雨我れめらる振る北三 露宿
 笈笠乃めくみ貴一 村時雨 一鉄
 手洗水中川毛此時雨さくく 不門
 韋詰玉も鼻あせたり 一時雨 立此
 早舞やさるる板倉村時雨 六平
 糸懸紙時雨深より 油曇 調味
 松乃時雨笠人上戸 横甲山 不外
 船子飯や枕京乃 山時雨 黄吻
 洗着さるる木枕時雨より 調南子

時雨さや糸系豆腐乃 房留使 疎元
 世乃在後や笠にゆりて 村時雨 調味
 扇酒とて時雨や 小栗此火吹亦 不玉
 石風さや時雨降り 手水桶 棄舟
 浮きさや八所さるり 小時雨 不見
 時雨より 長柄や 少く遠く 人 不卜

達广忌

草三ノ忌や浮世乃塵紙琥珀珠 丸丸
 そのうみや姑と 帯中草三忌と 調柳子

木葉

木葉やわらわらばる葉のり 柴舟
あはれま葉今もあはれ世も風 調味
あはれま木葉落葉のりやあはれ 調南子

冬枯

冬枯や山一丸を走らして 不來

用

風乃畢く藤屋に茂るる柳 立詠
木枯り一枯刻の本玉御言たり 文丸

早候

早候乃春や柳女う袖に如羅 疎元

首毛振

首毛振る冷う剛や水焔 黄吻
首毛振烟うくくや草積 立此
首毛振や烟う剛 一因

御新論

甲斐う振込さやあはれあはれ日蓮忌 才丸
妙を乃くくくく日蓮忌 不門

くわくく此題目淺や神氣深 黃吻

志賀浦

ふひと海くく真海くく 山夕

霜

孫晨く高やあまけ 霜度 正英

霧くけや小舟かもしん 霧生る 立詠

鼻長く霧くく 霧くく 霧度 六車

中橋や砂糖此霧くけ 上言 一藁

霧くけや雲乃公少く 小人海 流水

伊勢乃神亦亦て

霜清く是或則 神白石 青雲

霧くけあけけく 自然や雲柱 勝信

志賀浦

弥施乃奴くく 波乃板中 云尖

氷

志賀浦

一板く 施乃氷 志賀此街 一松

霧く水や 終乃氷くく 調賦子

唐月破波を 露園子

氷てらまゝく 氷波成屋之 笑儒

夢併や 氷波成屋之 似水

霰

わく波くや 霰はくく 小世原 葉舟

霰

古きくうう 小世原 内景を 立此

雪

今朝乃 雪浪成園 乃枝打小 桃青

雪はかり 酒乃ゆき 葉舟 一杓

梅向を 初雪とく 人曰方乃里 露沾

蘇や川 建月とく やく 富古屋 幽香

古折乃 乃和やま 乃む 平帯 笑予

湯豆腐や 杖乃 言談 此梳 山夕

くはるや 乃く 乃く 乃く 立此

日本橋や 長杖とく 乃く 不各

初舟や 乃く 乃く 乃く 笑儒

酒の通ひ 乃く 乃く 乃く 黄吻

方言羊也 中 人於心之戸此腹 九七 峯見

富士乃其地成之令名

日幅對方之於言を胡深 調音子

雄也如凡訓——雄乃言其二 調子

北斗脚を述其言上其弦の富士 調川子

淺黄表久之也或乃其富士 調幸子

雪早——後刷毛以の系之 調機

篠乃月此言行かき——筆此富士 調孔

玉飾之度強しも語言乃山 調友

角轉や旅野くくあはる不 調南子

今初乃其棒 再障きり豆腐 調味

練也や下詠乃畫悦きか 正幸

後如之く

月雪富士日比其書交あり 恭徳

石灰や雪れゆ言加るし乃 矢水

言れや白土其川る本舞 丸丸

言折や嵐吹くる乃聲 葉舟

使者や定家のみ——言れ 立尺子

陸色代用輝前志雪如山
山里や枝乃言形奇此音
梢乃言見碧如人自物
枕乃風人言也よ乱と云此言
若と人言此枝形や典系串
斤山里言此志若り本秋中
繪乃串一素ま紙信や言此志
白草や越ぬ山乃乃杏の言
留古此言や江戸仁屋あつて庭

顛子
調柳子
立見子
不門
松喃
遠清
不端
正幸
柳岸

めりや流う腫をも色む言乃道
綿おれ言やま佐言折并
りとも月一強言言言言此竹
留古ちり言形竹言行細
我今も笑世へ乃字に留古此
去女言此言ある言此の言
長能も枕中出さるる言此言
綿くみや何を柱と云此花
言佛之集刻める形り

笑予
棄舟
道折
矢詠
豊房
如鐵
矢石
笑予
調味

中

耳て見く目てすにけり言女 調味

耳に趣向作支志るや煎乃膏 同

方乃煎るらんあへ河内陸より 同

招板や板乃下り行の膏 不卜

膏

膏乃膏や山屋の役所を露す 笑二

すせ馬乃くやぎや膏乃力草 黄吻

鴨

石川くさきぬ鴨乃油黄 松木

妙舞乃雄羽買乃山や床此鴨 露章

喜首やねかー録此榮橋川 丸

火燧附火桶炭火

陰少き炭乃本此乃や猫の里 露沾

兵糧や矢倉出燧乃小倉次 不末

火此を中のうちに名正や池田炭 不門

局くたり紅白小い赤く炭 口慰

吾火桶きさやのまん地黄黄 黄吻

ねくくもの久ーくねや浅木炭 調味

中

小豆屋や子習ふ人此屋守りて 桃青

湯婆

あひまや姉有り 湯婆此湯婆^木 玄市

頭巾

木柵や老曾乃妻有り 玄市 二葉子

隠え取巾 山や浅草かたれ^の 黄叻

山守り 一毛井は^り置取巾 不門

紙子

我志を月ささくく 古紙子 調味

物尻毎乃余袖也 玄市 紙子 黄叻

冬月

扱月下弦有り 音あり 庭舎 失吊

鉢扣

新開の道法蓮の有り 鉢扣 調南子

一文や出ま^り付乃志ありて 不門

佛名

品子^の名や玄翁木高石佛 不門

煤拂

松風 大木將之助を燗掛

揚句打まきや伽羅臥燒や此煤乳

鯢

古書にきり十にきりく河豚汁

飯を心まき依衣に中山哉しり

知影くして呼吸をぬり被汁

少くこ汁浮せし花ぬ命とふ

虎 虎も人の敵れをく

毒を海とや黄令の膚河豚汁

松風

露沾

曲言

青嵐

兼豊

露言

笑水

不門

且那の寺め右近の寺や飯とき

白箸や矢とんりむう河豚汁

飯汁やらま池田乃右とん

左被り我まの人乃飯見鯢のは

去下ろ重安の命や飯乃汁

帯けや頭小高あつと汁

菜くくはれ加減少く汁

飯汁や延森のくく小巻衣

芝園法師のひ焼たり鯢焼云

不嵐

調味

笑姜

笑水

露章

可躍

慰心

調幸子

調南子

檄ヒラキや生乃松原ノ後ノ人ノ 黄吻

たゞくくはあこ此くくやゆノ汗 白白

智者ノ於ノ既ノ勇ノ者ノもノ難ノ婦ノ云 立芍

所ノくノ凡ノ出ノ法ノ度ノ其ノ宗ノ方ノ難ノ婦ノ云 立操

難婦

姐ノやノかノくノ乃ノ柳ノ一ノ皆ノ難ノ婦 立些

布ノくノくノやノ水ノ出ノ一ノ袋ノ大ノ難ノ婦 黄吻

あノ人ノ知ノくノもノ徳ノ自ノ此ノ死ノやノ病ノ一ノ切 一身

去ノ價ノ九ノ百ノ如ノくノくノりノ皆ノ難ノ婦 露章

皆ノ難ノ婦ノくノくノくノ海ノ我ノ度ノとノ事 夕九

目黒

未ノ乃ノ世ノやノ體ノ乃ノきノくノくノ以ノ初ノ目ノ黒 露深

あノ介ノ一ノ言ノやノ除ノくノくノ目ノ黒ノ并 立吟

物

黄ノ粉ノ乃ノ塩ノ海ノやノくノくノくノ堂ノ所 兼豊

油豆

孫ノ晨ノくノゆノ少ノ庵ノ乃ノ席ノやノ賣ノ油ノ豆 東水

糸ノ引ノきノりノ胸ノのノ振ノ舞ノ一ノ油ノ豆ノ汁 尖石

百合の皮同後中や賣納豆 不卜

寒念佛

明うや火点乃事ありき 不門

茅喰

草蒲園内にきききり 調味

茅喰や七日の不ア 正長

市持乃端アやむ 不取

くくけや日素れ恨 素頑

と氣くまの肥魚き 不門

同書乃命毛なう 疎元

節分

祈所より平のれや鬼れ豆 不門

除染れ豆尻り時乃羽りきり 松陰

二月六日の言分

鬼れ豆や廿又日乃極んりて 調律

鬼れ豆をいふやせたり豆大原 梅仙

炮原や火櫛波吹りけ鬼れ豆 不門

赤書をいふなり鬼乃豆 同

寒舟冷乃之倚や小舟枕 不門
おのしきや編乃頭むら紅紫 不卜

年忘

世靡り一秋之身人年忘 寢覚
夕人書らや朽り之思く年忘 不門
紫持り一我乃をなき之忘 紀子
安身く一感なき宿り年忘 調賦子

衣配

左史役者言信や見指く衣配 立訓

雜考

古き池や浅唐漬此石ひし川 似春
長筋やちりく一に紅立意此紅粉 春清
とくし砂や蟹乃穴籠老籠字 不見
大倉や猫乃鼻片く之意 不氷
世乃中やあし焼若乃ま林め 松意

歳暮

年此言や何のし年出く言は 葉舟
大年やかおむる川て片息 一鉄

借	金	和	一	河	乃	周	乃	大	晦	日	雪	柴
賣	掛	乃	周	乃	周	乃	大	晦	日	松	意	
年	此	善	那	庭	之	新	日	餅	本	素	旗	
有	籍	施	乃	漆	也	と	此	言		調	南	子
十	嘉	聖	一	氣	海	一	一	言	合	立	些	
口	之	勢	此	乃	世	之	乃	年	此	二	葉	子
月	乃	海	元	額	乃	年	乃	言		水	夕	
額	乃	波	之	治	川	如	之	年	此	樂	尖	
全	以	事	只	之	筆	此	京	江	戸	露	沾	

訛諧向の因 (不十)

延宝八年板 魚を石の文が

